

みなさんと未来を考えるフェニックスセンター★NEWS

i land Fill

Vol. 16



埋め立てたあとは
どうするの？

特集

泉大津沖埋立処分場は、 「ハヤブサ」の教育現場！

ハヤブサもフェニックス利用中!!



ハヤブサと言っても、昨年話題になった小惑星探査機『はやぶさ』ではありません、鷹の仲間、絶滅のおそれのある国内希少野生動物種に指定されている猛禽類の「ハヤブサ」のことです。

全国的にも珍しく、泉大津では数年前から市内のビルに営巣していることが確認されています。このたびNHK番組「ダーウィンが来た!生きもの新伝説」の取材を通して「ハヤブサ」が泉大津沖埋立処分場を利用していることを知ることができました。

「ハヤブサ」は、一度つがいになるとどちらかが死ぬまでずっと一緒に暮らす、とても仲のいい鳥です。上空でハトやムクドリ等の小鳥が現れるのを待ち、最大時速200kmから300kmで急降下して追いかけて、鋭いツメとクチバシで捕えて食べる習性があります。また、一番速く飛べるところから、「はやつばさ」「ハヤブサ」と呼ぶようになったとの説があるようです。

さて、この「ハヤブサ」、毎年5月から6月ごろ孵化し、6月下旬から7月にかけて巣立ちします。巣立ちした幼鳥は、ひと月程は親から餌をもらいますが、その後自分で捕食するために、泉大津沖埋立処分場で大いに腕を磨き、立派な成鳥に育っていきます。

こうした食物連鎖の頂点にいる猛禽類「ハヤブサ」は、ただ生息数が少ないから貴重というだけでなく、生物の多様性を守るという点からも大切であるということを知りました。都会に生きる「ハヤブサ」にロマンを感じ、そして、廃棄物を適正に処分してこそ、身近な自然を守ることができ、「ハヤブサ」を守ることにつながることも大切なことと改めて実感しました。皆様はいかがでしょう？

(今回取材のあった「ダーウィンが来た! 生きもの新伝説」の放送は、11月20日の予定です。なお、放送日は変更の場合があります。)



写真提供: 山田悦三氏

A.

できた新しい土地は、公園や駐車場の用地、倉庫や建物を建てる用地、港湾関連用地、緑地に利用されたり、また、コンサートやイベントに活用されるなど有効に利用されます。





持続可能な廃棄物処理システムの確保のために

いなむら かずみ
尼崎市長 稲村 和美

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り致しますとともに、被災された皆様に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

これまで、尼崎市は兵庫県やさまざまな団体からの要請を受けて、被災地支援を行ってまいりました。今後も引き続き県及び周辺各市と連携を取りながら、応援要請に対し、できる限りの対応をしてまいりたいと考えております。

尼崎市は、兵庫県の東南端に位置しており、市域は49.97 km²を有し、南は大阪湾に面し、東は大阪市と隣接、西は武庫川をはさんで西宮市、芦屋市そして神戸市へと繋がる兵庫県の東の玄関口として、利便性に優れた住環境を有した産業都市です。

戦後の高度経済成長期には阪神工業地帯の一翼を担い、昭和45年には人口55万人を超えるなど、工業都市として大きな発展を遂げてきました。しかしながら、その後の日本経済の構造変化と共に人口は減少し、現在では45万2千人と兵庫県下では神戸市、姫路市、西宮市に次ぐ4番目の都市となっています。

工業化を遂げた一方で、本市は深刻な大気汚染問題、尼崎公害訴訟や近年明らかになったアスベスト問題など、多くの課題を抱えることとなりましたが、これまで、市民の皆様とともに、その困難を克服し、また克服べく取り組みを進めており、コンパクトで持続可能なまちづくりを目指し、公害防止に向けた施策や環境に対する市民・事業者との協働による「尼崎21世紀の森プロジェクト」の実施など、産業、交流、学びの拠点として「成長から成熟へ」に向けた再生への取り組みを展開しています。

廃棄物行政に目を転じますと、今年3月に本市では平成

32年度を目標年度とする一般廃棄物処理基本計画を策定したところです。この計画では、基本理念として「循環型社会と低炭素社会を両立した効率的かつ持続可能なごみ処理システムの構築」を掲げております。これまでの市民、事業者が主体となって廃棄物の減量・分別・リサイクルに取り組む施策に加え、環境負荷の少ない持続可能な都市を目指す長期的指標とするため、地球温暖化や資源の枯渇といった地球規模での諸問題を踏まえ、既存の施設や人材といった本市保有の資産を経済性や効率性に配慮しながら有効活用できる取り組みを行っていくこととしています。しかしながら、たとえ廃棄物の処理技術やリサイクル手法が発達し廃棄物の減量化が進んだとしても、最終処分のための埋立処分場は必ず必要となります。行政として、市民生活から生じた廃棄物を適正に処理する責務を果たすため、安全で安定した廃棄物最終処分場を継続的に確保することは必要不可欠なことです。

本市は、大阪湾圏域広域処理場整備計画へ当初から参画し、臨海部に尼崎沖埋立処分場と9つある搬出基地のひとつとして尼崎基地が設置されるなど、大阪湾域の自治体としてその責務を果たしてまいりました。しかしながら、大阪湾圏域広域処理場整備計画における現状の2期計画では、平成33年度までの供用埋立処分は確保できているものの、その後の計画は未確定な状況です。本市同様、参画している168市町村にとって、今後も安定して廃棄物行政を推進していくためには、最終埋立処分場の確保は必要不可欠です。

次期(3期)計画の早期実現による最終処分場の継続した確保に向け、大阪湾フェニックスセンターに期待するところです。

編集後記

大阪湾フェニックスセンターでは、自らの責務として、環境負荷を可能な限り低減していくためのマネジメントシステムとして、環境省が推進している環境活動評価プログラム「エコアクション21」の認証を取得し、オフィス業務では、節電、廃棄物排出量の削減、グリーン購入を推進し、事業所業務では業務の特性に応じた目標を設定し環境配慮活動に取り組んでいます。

各ご家庭においても、いま一度、身近な取り組みとして節電や3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動を推進し、環境配慮に取り組んでいきましょう。

ご意見ご感想がございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せください。

(編集スタッフ一同)

i land fill Vol.16

発行: 大阪湾広域臨海環境整備センター
フェニックスセンター

<http://www.osakawan-center.or.jp>

〒530-0005

大阪市北区中之島2-2-2 大阪中之島ビル9階

TEL 06-6204-1721(代)

FAX 06-6204-1728

E-mail phoenix@osakawan-center.or.jp

i Land Fill は当センターホームページにも掲載しております。



[2011.10]